

第8回新潟県手術看護認定看護師セミナー

平成30年5月

研修名	認定看護師と手術看護について語ろう
研修目的	新潟県内の新卒新人及び中途異動の手術看護師が、認定看護師（以下CN）の講義やグループワークを通して自己の手術看護観を深めることができる
研修目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 認定看護師の手術看護実践のナラティブを聴くことで自己の手術看護を振り返ることができる。 2. 新卒新人看護師が、グループワークを通して認定看護師、グループメンバーの手術看護を知り自己の手術看護を深めることができる。 3. 中途異動者が、グループワークを通して、同じ立場にある者同士の悩みや思いを聴き、共感・共有することで、手術室での看護を知り、日常の看護業務を手術看護につなげることができる。また、手術看護への見方や捉え方広がり、自己の手術看護を深めることができる。
対象	新潟県内の新卒新人及び中途異動（手術室経験1年未満）の手術看護師
参加人数	38名（新卒新人13名・中途異動者25名）
開催日	平成30年3月3日（土）13:00～16:30
会場	新潟市民病院 4階 講堂
研修内容	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション（13:00～13:10） ・サクラ精機株式会社による「滅菌・洗浄について」についての講義（13:10～13:45） ・認定看護師3名によるナラティブの発表（13:50～14:20） 器械出し看護（伊藤） 外回り看護（穴沢・志田） ・グループワーク「手術看護について語ろう」（14:30～16:15） ・質疑応答、アンケート記入など（16:15～16:30）
評価	<p>1. 研修内容について</p> <p><u>認定看護師によるナラティブの発表</u></p> <p>研修目標：認定看護師の手術看護実践のナラティブを聴くことで自己の手術看護を振り返ることができる</p> <p>アンケート結果から、参加者全員がナラティブの発表を通して自己の手術看護を振り返ることができたと回答した。自由記載では「今まで行ってきた看護について考えることができた」「自分だったらどう声掛けするか、行動するか考える機会になった」「手術室だからと、なぜか手を出せなかった声をかけられなかったことがあったが、病棟看護師と変わらず患者様によりそった看護をしても良いのだと再確認できた」など、認定看護師の発表を自身の行動に重ね合わせ看護を振り返る事が出来ていた。また、「先輩方も悩みながら看護してきたことが分かって、勇気が出た」「認定看護師の方たちも自分と同じことを</p>

思ったり、考えながら成長されていたんだなと知って心強かった」など、認定看護師の発表から勇気をもらい前向きに考え取り組むことへの一歩につながったと考える。

グループワーク

アンケートの『自分の思いや考えを話すことができたか』ではとても出来た51%、どちらかといえば出来た49%と全員が出来たとの評価であった。新卒では悩みや思いを吐き出せたことへの意見が多かった。中途採用では、共感できたこと、悩みを言えたこと、他施設の状況を知れたという意見が多かった。『自己の手術看護を深めることができましたか（変化はありましたか）』では、とても出来た43%、どちらかといえば出来たが57%できなかったと答えた人はいなかった。昨年度はどちらかといえば出来なかったが13%あり、また自己看護について話せなかったという参加者がおり、その意見を重くとらえ研修目標である手術看護に繋げることができるという目標達成の為にも、悩みや不安を語り合う中で看護に繋げられるようファシリテーションが課題であった。できなかったという評価がなかったことから少なくとも看護について触れることが出来たのではないかと考える。また自由記載では「患者さんの背景やどう生活してきたのか、どういった思いで手術を受けるのかという視点をもって看護をしたいと思う」「コミュニケーション、精神面によりそうことが大切だと改めて深めることができた」など患者への関わりに焦点を当てた意見が多くあり、看護を考えるグループワークになったと思われる。

2. 参加者の満足度について

参加者全体の研修前と研修後の元気度を比較すると「とても元気」「元気」の合計が46%から73%に増加し、研修前「つらい」11%が研修後0%となった。今回の研修で元気度は上昇していたことから満足度に繋がっていると考える。特に目立った所は新卒の「とても元気」が研修前16%から研修後58%と大きく上昇し、さらに一番元気がない新卒の参加者でも「普通」まで回復している。思いや不安、悩みを吐き出せる事は満足度に繋がっていると考える。

3. 研修時期と時間について

「遅い」「長い」と回答した受講者は1名のみであった。時期や時間を検討したが、同時期同時間での開催が適切ではないかとの結論に至った。今後も同時期同時間での開催をしていく。